白山神社

行悦道標

鞍取峠

太神宮燈籠

伊勢本街道

伊勢本街道の概要

大和と伊勢を結ぶ街道は、北から初瀬街道（あを越え伊勢街道）、伊勢本街道、和歌山街道（高見越え伊勢街道）の３ルートが知られている。街道の名は目的地や大きな峠を頭に付けて呼ぶことが多く、同じ道でも大和から「あを越え道」は伊勢からは「初瀬街道」と呼ばれる。その中でも神宮の遷座にかかわる倭姫命の巡幸の道とされた伊勢本街道だけは、どちらからも「本街道」と呼ばれ「神の御心に叶う道」として参宮者に利用された。

南北朝の頃に上多気（津市美杉町）に本拠を移した北畠氏によって、奈良や吉野への道として整備された「本街道」は多くの人々が行き交うようになるが、江戸時代になると津の藤堂藩が整備を進めた初瀬街道のほうが比較的平坦なことからも利用する参宮者が増加。最短距離で伊勢をめざす「本街道」は、峠越えや川渡りなどの難所も多いため、次第に生活道路へと姿を変えていくこととなった。この街道沿いには、江戸中期の六十六部行者の「菅野村行悦」が建てた回国供養塔が桜井市初瀬から三重県多気町までの間に９基確認されている。それらには大和初瀬からと伊勢宮川までの距離が彫られ、旅人とっては現在位置を知ることができ、大変便利なものであったと考えられる。

鉄道の開通によって徒歩での参宮者が皆無となり、街道沿いの宿場町を結ぶ新道建設の際には険しい峠などの難所を迂回するルートがとられたため、今も「本街道」には峠を越える古道が各所に残り、行政や地域の人々によって案内板や休憩所の設置や草刈りなどを行って、古道を維持する取り組みが続けられている。また、大阪や奈良から歩いて伊勢に向かう人々からは、往時の面影を色濃く残す街道として注目を集めるが、公共交通機関の減便や廃止のため、日帰りウォークでは事前にバス時刻などを調べておく必要がある。